

【事例 1】 「日本歌曲に親しむ」 中学校第 3 学年

1 はじめに

(1) 音楽科における読解力育成のために

PISA 型読解力は「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されている。

これを踏まえて音楽科における読解力を考えると以下になる。

① テキストを理解・評価しながら、読む力、聴き取る力、感じ取る力を高めること

② テキストに基づいて自分の思いや考えを表現する力を高めること

上記のことを踏まえ、この題材においての読解力を

『テキストから聴き取ったり感じ取ったりした音楽から、音楽を特徴付けている諸要素の美しさなどを感じ取り、楽しく表現したり味わったりする能力』

ととらえる。

(2) 表現活動＜日本歌曲＞においての読解力育成のために

まずは音楽科の指導は小学校の音楽的知識・技能の蓄積に立った上での中学校 3 年間の継続的な指導が大切で。

そして音楽科として読解力育成につなげるためには、日々の授業の中で「読む・書く・解く」能力をつけるための手立てを意識的に取り入れることである。

○読解力育成のためのポイント

① テキスト（CD など）聴き取った音楽からその音楽を特徴付けている諸要素の美しさやおもしろさを感じ取り、理解すること。

② テキスト（楽譜や音そのもの）に書かれていることを理解し、作曲者の意図を感じ取って、自分の言葉で書いたり、発表したりすること。

③ テキスト（楽譜や音そのもの）に書かれている表現意図（曲表現のための音楽的諸要素）を言葉や歌唱で表現すること。

(3) 本題材において

上記の読解力育成のための手立てを学年ごとの音楽的知識の実態に合わせて意図的に取り入れていく。

本題材「日本歌曲に親しむ」に関して各学年の目標を明確にし、題材や教材の配列を考慮する

その上で以下の視点に留意し指導していく。

○学習指導の視点

① 聴き取った内容を言葉で説明したり、根拠をもって批評できること

② 日本歌曲の歌詞と音楽（旋律）の関係を理解すること

③ 話し合いや歌唱発表会などを通してイメージや思いを伝えるなど、表現力やコミュニケーション能力を高めること

○系統的な教材

＜第 1 学年＞

- ・目標「歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する。」
- ・教材「ふるさと」「赤とんぼ」「夏の思い出」

＜第2学年＞

- ・目標「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。」
- ・教材「ふるさと」「浜辺の歌」「荒城の月」

＜第3学年＞

- ・目標「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫し、表現力を高める。」
- ・教材「ふるさと」「花」「花の街」「早春賦」「椰子の実」
*「ふるさと」は全校合唱曲として取り組んでいる。(アカペラ)

3 題材

「日本歌曲に親しむ」

4 題材設定の理由

(1) 生徒観

本校は合唱が伝統の一つとなっている。特に合唱コンクールでは年を追うごとに素晴らしい歌声を聴かせてくれるようになり、今年度を実施された草加市文化会館での合唱コンクールでは大成功に終わった。

生徒はその雰囲気を感じ、小学校から培った音楽知識もあり、音楽に対する関心が高い生徒が多い。アンケートの調査結果からも、「音楽が好きだ」という生徒は85%以上である。その中でも「歌唱が好き」と答えた生徒は80%以上を占めている。しかし、「日本歌曲が好きだ」という生徒は30%にも満たない。声を合わせての合唱表現の豊かな響きに対し、意欲的な反面、本来の日本歌曲の美しさやよさを理解していないため、消極的な姿勢になっていると考えられる。

歌唱表現に対しての意欲を大切にしながら、日本歌曲の美しさに気付かせるとともに表現の工夫をさせていきたい。

(2) 題材観

学習指導要領の第2学年及び第3学年の表現の内容のアに「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」とある。日本歌曲の表現では、歌詞の意味や歌詞の表す情景や心情など、楽曲を構成する音楽の諸要素の働きが重要である。歌詞の内容や曲想、作詞者、作曲者の心情、楽譜に示された音楽記号など、様々な音楽的諸要素を理解し味わうことで、生徒個々のイメージがふくらみ、表現の工夫につながると考える。

(3) 指導観＜読解力育成の視点も考慮しながら＞

本題材では、日本歌曲の美しさや良さを構成している音楽的諸要素に着目させながら、表現の工夫をさせ、我が国で長く歌われてきた愛唱歌に親しませることをねらいとしている。

学習指導要領の目標にも「幅広い音楽活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、自らの生活を明るく豊かにする態度」を育てることを意識していく。そして、音楽科としての読解力育成の手立てを考慮しながら、以下の指導の観点を重視していく。

① 自然で響きのある発声法を意識させる。

発声の基本である呼吸法と響きを作るための鼻腔を意識させ、感覚的に響きを

つかませていく。特に日本歌曲独特の言葉の抑揚を表現させるために、より深みのある発声、発音をさせる。

② 深く聴く能力を育てる。

音楽を表現するには、深く聴くという活動が重要である。特に、日本歌曲独特の日本的な旋律、伴奏の美しさ、歌詞、歌詞と旋律が一体となった独特な雰囲気などを感じ取らせていく。また、日本歌曲の美しさや良さを、表現するための必要な音楽の諸要素（歌詞の発音、語感、音楽記号など）に気付かせながら、感覚的に感じ取らせていく。

また、音そのもの（伴奏や範唱のCDなど）から感じ取った音楽的諸要素を言葉で書き留めたり、表現したりする中で、音楽科としての読解力育成につなげていく。

③ お互いに聴き合い、発表し合いながら、共感を通して理解させる。

グループでの話し合いや全体の発表会を通して、生徒の言葉から発信させる言葉や音を大切にしていける。そして、お互いに共感し合いながら、曲表現に音楽的諸要素に気付き、表現につなげていく。

④ 読解力育成のために、言葉表現を通して活動を進める。

表現するために必要な内容を言葉や文章で根拠をもって書いたり、説明したりする活動を意識的に取り入れていく。

音楽を構成する音楽的諸要素を根拠を持って言葉で説明したり、プリントに書いたりさせていく。また、言語表現の苦手な生徒には、個別に指導しながら、生徒の思いを大切にしていける、明確な根拠ある言葉にしていける。

5 題材の目標

- ・日本歌曲の歌詞の内容や曲想を理解し、素晴らしさを味わわせる。
- ・日本歌曲のよさを感じ取ることによってふくらませた自分のイメージや感情を表現に生かすことができるようにする。

6 教材

- | | | | | |
|---------|------|-------------|----|----------|
| ・花の街 | 作詞 | 江間章子 | 作曲 | 團伊玖磨 |
| ・ふるさと | 作詞 | 高野辰之 | 作曲 | 岡野貞一 |
| ・浜辺の歌 | 作詞 | 林古溪 | 作曲 | 成田為三 |
| ・赤とんぼ | 作詞 | 三木露風 | 作曲 | 山田耕筰 |
| ・帰れソレント | 作詞 | G. B. クルティス | 作曲 | E. クルティス |
| | 日本語訳 | 芙龍 明子 | | |

生徒は、1年生より教科書に載っている日本歌曲を歌唱してきた。3年生では著名な曲を中心に歌唱し、関心を高めていく。また、外国の歌（イタリアの民謡）を鑑賞し、楽曲の特徴の比較もしていく。

主教材である「花の街」は、作者の言葉にあるように「幻想の街」である。戦争が終わり平和が訪れた街を作者の夢として描いた詩を基に作曲されたものである。また、情緒豊かなピアノ伴奏が印象的である。

一つ一つの言葉の意味を考え、イメージをふくらませ、曲にあった表現の工夫をするのに適していると考えている。

7 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	・曲を構成する諸要素の働きと歌詞の内容から想像できる曲想に関心をもち、自分の思いやイメージを歌唱表現に生かそうと意欲をもって取り組んでいる。	・曲を構成する諸要素の働きと歌詞の内容から想像できる曲想を味わいながら、自分の思いやイメージを歌唱表現に生かそうと工夫している。	・曲を構成する諸要素の働きと歌詞の内容から想像される曲想を味わいながら、自分の思いやイメージを生かして歌唱表現する技術を身に付けている。
学習活動に具お体けのる評価規準	①歌詞の内容をよく考え、情景をイメージすることに意欲的である。 ②歌詞の内容や曲想に応じた言葉の発音の抑揚に関心をもち、表現することに意欲的である。	①曲を構成する諸要素による効果を感じ取り、それらを自分の歌唱表現に生かしている。	①歌詞の内容や曲のイメージを感じ取りながら、歌唱表現をする技術を身につけている。 ②曲を構成する諸要素を理解しながら、それらを表現する技術を身に付けている

8 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点 ＊読解力育成のための視点	具体的な評価規準
1	<第1時> 日本歌曲の素晴らしさを知る。 ○今まで学習した日本歌曲を歌唱する。 ・「ふるさと」 ・「赤とんぼ」 ・「浜辺の歌」 ・「早春譜」 ○日本歌曲の美しさについて話し合う。 ・参考に「帰れソレント」を鑑賞する。  ○日本歌曲の美しさを感じ	・歌詞の内容や曲のイメージに気を付けさせて、歌唱させる。 ・発声法及び楽譜上の記載されている音楽記号に注意させる。 ・曲を構成する音楽的な諸要素<歌詞、音楽記号、音程など>に着目させて、話し合わせる。 ☆日本歌曲とイタリア民謡について特徴や良さを比較させることで何が日本歌曲の美しさを構成しているかを話し合わせる。そして、言葉で根拠を持って説明させる。	イ① 〔活動観察、感想発表〕 ウ①

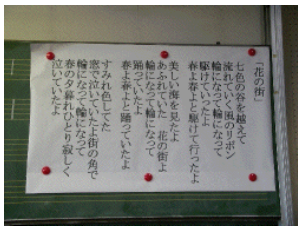
	ながら、歌唱する。	・楽譜の音楽記号に注意させ、表現できるようにさせる。	〔歌唱観察〕
	＜第２次＞日本歌曲のよさを味わい、その美しさを表現できるようにする。		
2	○「花の街」の歌詞について知る。 ・歌詞を読んで、内容を理解する。 ○「花の街」を鑑賞する。 ・曲の訴えたい内容について知る。 ○「花の街」を歌唱する。 ・曲を構成する諸要素を感じ取りながら、歌唱する。	☆歌詞の内容について、深く理解できるように手立てを支援する。  ・曲表現に必要な音楽的諸要素の働きに気付かせる。	イ① 〔発表観察、学習プリント〕 ア① 〔歌唱観察 感想発表〕
3	○「花の街」の曲表現について話し合う。 ・曲表現に必要な音楽的諸要素についてお互いに理解しながら、話し合わせる。 ・グループごとに曲表現を工夫させる。 ○グループごとに発表する ・グループごとに曲表現に大切な音楽的諸要素について話し合ったことを発表し、歌唱する。 ○全員で歌唱する。 ・グループでの発表を生かしながら、全体で曲表現を工夫する。	・「花の街」の曲表現で大切な音楽的諸要素を選び出し、表現に生かすように３つのグループに分け、練習させる。  ☆歌唱発表の前に、グループで話し合った曲表現に必要な音楽的諸要素について発表させる。  ・各グループの発表を生かしながら、「花の街」の曲表現に必要な音楽的諸要素を確認していき、曲表現を工夫していく。	ア② 〔グループ活動 観察〕 ウ② 〔グループ発表〕

9 本時の学習＜第2時＞

(1) 本時の目標

- ・曲を特徴付ける音楽的諸要素に気付き、その役割を理解する。
- ・歌詞と音楽が一体となった日本歌曲の美しさを感じ取る。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 ☆読解力育成のための視点	具体的な評価項目・方法
○既習曲を合唱する。 ・「思い出は空に」 ○本時の目標を確認する。 ・本題材の目標「日本歌曲に親しむ」  ○「花の街」の内容を知る。 ・歌詞を提示し、イメージを想像させる。 ・伴奏を数曲鑑賞させ、歌詞のイメージに合った伴奏を選ばせる。 ・範唱を鑑賞させる。 ○全員で曲表現にあった音楽的諸要素について話し合う。 ○「花の街」を歌唱する。 ・教師による歌詞の範読後に数名の生徒に群読	・簡単な腹式呼吸など体操を行いながら、授業の雰囲気を作る。 ・曲表現に必要な音楽的諸要素について、注目することを説明する。 ☆音楽のテキストである楽譜と音そのものについて注目させる。 ・歌詞からイメージされる情景をプリントに記入させる。 ☆教科書の「作詞者の言葉」を参考にして、作者の思いを感じ取らせる。 ☆歌詞、伴奏、範唱の鑑賞を通して、曲表現に必要な音楽的諸要素に気付かせる。 ・生徒の聴き取った音楽的諸要素を黒板に板書し、全員で共有していく。 ☆生徒から発表された音楽的諸要素を生徒の言葉から教師側の言葉＜音楽的な言葉など＞に置き換えていく。 ☆範読のとき、言葉の抑揚や語感に注意させる。 ・教科書の作詞者の言葉に注目させながら、イメージをふくらませる。 ・次回はグループで練習し、発表することを伝える。	イ① 〔発表観察 グループ発表〕 ア① 〔歌唱観察 感想発表〕

させる。 ・歌詞や音程に注意させながら、歌唱させる。 ○次時の予告		
---	---	--

9 成果と課題

(1) アンケート調査（表現活動に関する意識調査）の結果から

このアンケートは音楽科としてとらえた「テキストから聴き取ったり感じ取ったりした音楽から、音楽を特徴付けている諸要素の美しさなどを感じ取り、楽しく表現したり味わったりする能力」を授業前、どれだけ意識しているかを調査したものである。対象は本校の3年生徒、167名（実施生徒161名）である。

本校の3年生は、ほとんどの生徒が表現活動（合唱）に意欲的であり、10月には合唱コンクールが行われたこともあり、曲表現の工夫にも積極的である。

アンケート結果では、音楽表現に必要な音楽的要素（強弱、速度、曲想など）への気付きや理解については、多くの生徒が深めている。しかし、歌詞の理解、作詞者や作曲者の思いを意識することには積極的でない生徒も多い。

この結果から、表現活動を指導する上で、歌詞の理解を重視せずに音素材や音楽的諸要素ばかりに注目させていたのは、指導の反省点である。特に深い表現を目指すためには、歌詞の内容や作詞者、作曲者の思いを理解することは大切であることにも注目させた。

<アンケート調査の主な結果>（実施生徒161名）

歌うときに、次の項目をどれくらい意識して歌唱しますか。○をつけてください。

* 4 3 2 1で評価する。

(1) ①音程に気をつけた

4 < 1 5 8 > 3 < 3 > 2 < 0 > 1 < 0 >

②歌詞を暗譜することに気をつけた

4 < 1 4 1 > 3 < 2 0 > 2 < 0 > 1 < 0 >

③声の大きさに気をつけた

4 < 1 2 1 > 3 < 4 0 > 2 < 0 > 1 < 0 >

(2) ①楽譜上の音楽記号に気をつけた

4 < 1 3 5 > 3 < 2 6 > 2 < 0 > 1 < 0 >

②歌うときの速さに気をつけた

4 < 9 5 > 3 < 6 6 > 2 < 0 > 1 < 0 >

③歌詞を理解することに気をつけた

4 < 7 5 > 3 < 8 6 > 2 < 0 > 1 < 0 >

④曲のイメージを持つことに気をつけた

4 < 6 9 > 3 < 8 7 > 2 < 5 > 1 < 0 >

(3) ①曲の表現を工夫しようと気をつけている

4 < 1 3 1 > 3 < 2 8 > 2 < 2 > 1 < 0 >

②作詞者、作曲者の気持ちを考えて歌おうとしている

4 < 2 5 > 3 < 1 2 3 > 2 < 1 3 > 1 < 0 >

③歌詞の内容を自分なりにイメージして歌っている

4 < 1 3 > 3 < 1 2 0 > 2 < 2 5 > 1 < 3 >

(4) ①曲を構成する音楽の諸要素に気付きますか

4 < 5 8 > 3 < 9 9 > 2 < 4 > 1 < 0 >

②曲を構成する音楽の諸要素を自分なりに理解できますか

4 < 2 5 > 3 < 1 2 7 > 2 < 9 > 1 < 0 >

③曲を構成する音楽の諸要素を理解して歌えますか

4 < 1 6 > 3 < 1 2 0 > 2 < 2 5 > 1 < 0 >

(2) 成果

この研究実践を通して、教師が「音楽科としての読解力育成」という視点を常に意識しながら授業にのぞむことの大切さを実感した。

特に歌唱の活動においては、音優先に活動を進めていたことが多かったが、言葉や言葉の語感などから音につなげていったことで、生徒は「言葉の意味」や「この言葉をどのように歌唱するか」などが意識できたと考える。

ある生徒は、「花の街」の範唱CDを聴いて、「この曲を表現するのに必要なことは何だろうか？」という教師の質問に対して、「気持ちがこもっていた。‘泣いていた’の部分は、すすり泣くような表現がすごい」と答えた。それを「具体的に・・・」という、他の生徒から「発音や語感の美しさ」や「ピアノ伴奏がいい」などの音楽的な言葉による表現に変わっていった。そして、歌唱の際、一つ一つの言葉を大切に発音し、伴奏の役割を耳で聴きながら歌唱するグループが増えた。

生徒は、鋭い感覚をもっている。教師は、生徒の光る言葉をすくい上げ、全員で共有できる音楽的な言葉に変えていくことが重要である。音楽の諸要素など音楽的な言語で表現しようとすることは、音楽科としての「読解力の育成」を考える上で重要である。この調査研究で生徒一人一人が、音楽の諸要素を感じ取り、音楽のよさを味わうことができたと考える。

(3) 課題

限られた音楽の授業時数の中で、効果的に指導していくには、年間指導計画の中に「音楽科としての読解力育成のポイント」を明確に示し、継続的な指導を行う必要がある。

「音から、言葉へ、そして音へもどす」という観点を大切にして今後も研究していく所存である。